

宮代町郷土資料館だより

えんがわ

第 36 号

企画展 金原遺跡発掘出土品展Ⅲ

金原遺跡は、平成 16 年度彩の国まごころ国体アーチェリー会場のはらっぱ一く宮代建設に伴い、平成 8 年 10 月から平成 11 年 4 月にかけて約 2 年半に渡り発掘調査が行われました。発掘調査中には 2 回に渡り発掘出土品展が開催され、住民の皆様方に発掘調査の状況を公開してきましたが、遺物の整理作業が終了したことや発掘調査終了 10 周年を記念して第 3 回目（発掘調査終了後では初めて）の企画展を開催することとなりました。



金原遺跡全景（手前の穴が方形柱穴列）

金原遺跡からは、旧石器時代の石器製作場の跡（約 20,000 年前）や縄文時代早期中葉（約 7,500 年前）から後半（約 7,000 年前）の住居跡、縄文時代中期後半の住居跡（約 4,200 年前）、

縄文時代後期初頭（約 3,900 年前）から後期前半（約 3,700 年前）の大集落等が発見されています。



第 26 号住居跡埋設土器 1（約 4,200 年前）

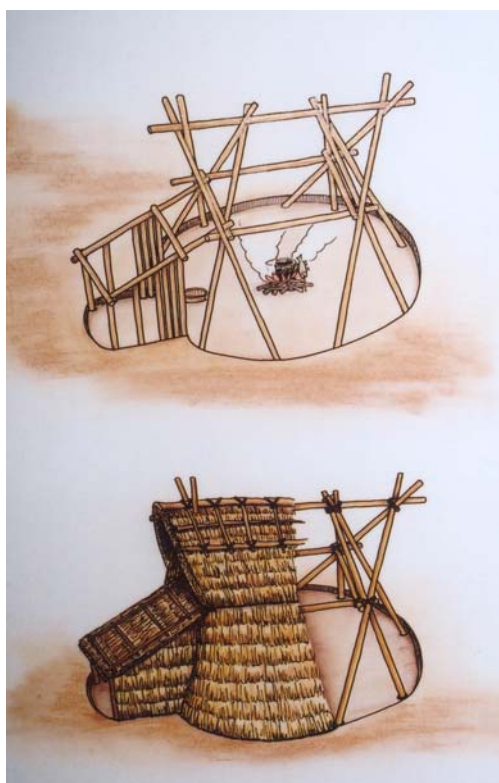
金原遺跡で人々が生活したのは、旧石器時代の約 20,000 年前からです。この時期の遺構はナイフ形石器を製作した跡や調理をしたと推定される礫群が発見されました。次に人々の生活が確認できるのは約 13,000 年前です。この頃の遺構は尖頭器（槍の先に付ける石器）を製作した跡が発見されています。

縄文時代に入ると約 8,000 年前の土器が見つかっていますが、住居跡は発見されていません。なお、この頃の住居跡は前原遺跡（現在の前原中学校校庭）から発掘されています。約 7,500

年前には2軒の住居跡、約7,000年前にも2軒の住居跡が検出されています。道仏土地区画整理事業で発掘された道仏北遺跡で最も集落の規模が大きかった時代である縄文時代前期（約6,000～5,000年前）には、金原遺跡では土器は発見されましたが、住居跡は見つかっていません。その後、約4,200年前の縄文時代中期後半には2軒の住居跡が発掘されています。



第7号住居跡（約3,900年前）



柄鏡形住居跡（約3,900年前）の復元図

金原遺跡で最も集落の規模が大きかった時代は約3,900年前の縄文時代後期初頭です。この頃には島状の台地の西側で2列に住居跡が並んでいたようです。住居跡群と魚や貝の漁場で

あった沼との間には円形の土坑と呼ばれる貯蔵穴やゴミ捨て穴が多数掘られていました。住居跡列の東側には方形柱穴列と呼ばれる掘立柱建物跡が発掘されています。中央には火を燃やした跡がありました。柱穴からも炭化材が出土していることから、この建物は「金原縄文ムラ」の集会所的なムラのお祭りをを行う場所であったと推定されます。この周辺からは多量の土器が出土していることもその証明といえるのではないのでしょうか。約3,700年前の縄文時代後期前半にも2軒の住居跡が発掘されていますが、これ以降、金原遺跡で集落が営まれることはありませんでした。



約3,900年前の金原遺跡復元図

その後、室町時代（約600年前）になると現在の金原の集落で、人々が暮らし始めたようです。金原遺跡では江戸時代初頭（約400年前）の道路の跡が見つっています。金原の集落から繋がる道路ですので、金原遺跡内に祠などがあった可能性もありますが、詳細は不明です。



第3号埋設土器（約3,900年前）

8月までに資料館で行われた講座です

企画展タイアップ講座 みやしろ歩け歩け!

4月25日～7月12日まで「みやしろ歩け歩け!～写真でめぐる宮代の歴史と文化財～」を実施しました。この企画展に関連して、歩け歩けのコースの一部を当館学芸員の案内で実際に歩いてみようという講座を開催しました。

姫宮駅～西原地区、和戸駅～西条原地区の2つのコースの予定でしたが、姫宮駅～西原地区のコースは雨のため中止となり、和戸駅～西条原地区のコースが6月27日(土)午後、行われました。久しぶりの晴れの蒸し暑い日でしたが、12名の方が参加され、普段なにげなく通り過ぎている道の片隅の石造物、社寺や用水、道路など、その歴史やいわれについて学芸員の説明に熱心に耳を傾けていました。また、実際に歩いてみて、石造物や用水など思わぬ新たな発見もありました。



みやしろ歩け歩け 講座風景

夏休みとっておき体験 ～郷土資料館に行こう～

郷土資料館では、毎年、小・中学生を対象として昔の人々の暮らしの一端に触れる体験教室を行っています。今年は、7月28日の組みひもづくりを始めとして、昔の帳面づくり、はんこづくり、しぼり染め、縄文ペンダントづくり、まが玉づくり、織物、手すき和紙でうちわづくりなど9種10日間の講座を行いました。

みんな、一生懸命、それぞれ取り組んでおり、「楽しかった」「難しかったけど、うまく出来たよ」といった声が聞かれました。自分でつくった世界でたった一つのもの、夏休みの思い出とともに大切にしてくださいね。



夏休みとっておき体験講座昔 帳面づくり風景

縄文土器をつくろう ～私も今日は縄文人～

町内では、約12,000～3500年前の縄文時代の土器がたくさん発掘されていますが、そうした縄文土器をみて、自分でつくってみようということで、土器づくりが7月30日、土器焼きが8月28日に行われました。縄文時代に思いをはせながら、講師の先生の指導のもと、粘土と悪戦苦闘しながら、それぞれの縄文土器をつくりました。また、縄文時代の土鈴(すず)もつくりました。

かやぶき民家で昔ばなしを聞く会

8月1日(土)午後2時から行われました。「雪女」、「文福茶釜」ほか2話、そして郷土の偉人 島村蓼三(盛助)原作「村の宝」の話しがあり、参加者の方々はかやぶき民家の雰囲気を楽しみながら、みやしろお話し会の会スウスの皆さんの語りに、聞き入っていました。

移築民家と「アタラシイ」ゲキ6

今年で6回目をむかえました。みやしろ劇団パーティー他による劇が旧加藤家住宅で行われました。毎年、郷土宮代にかかわるテーマを中心に数作品上演し、今年は郷土の偉人 島村蓼三(盛助)原作「火取虫」が上演されました。一般の舞台とは違い移築民家での上演に、観劇された皆さんも劇に引き込まれるように見入っていました。

予告 特別展「宮代町の水害」

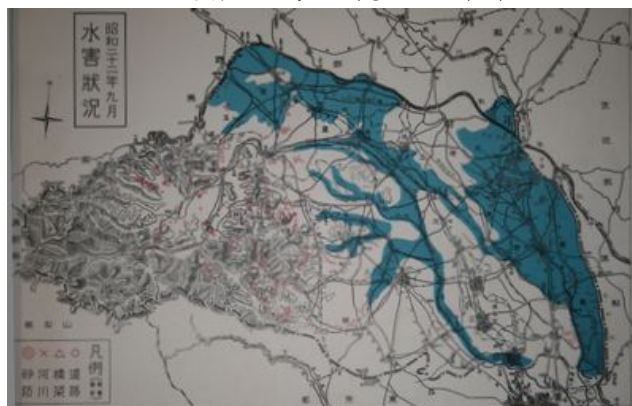
宮代町は古利根川の右岸にあり、その東側にはかつて利根川等の乱流域であった中川低地が広がっています。標高も6～10メートル程の低い地域にあります。このため、古くからたびたび洪水にあい、大きな被害を被ってきました。

ことに、明治43年、昭和22年の大水害は、今日なおその凄まじい水害の様子が語り継がれ、あるいは記録として残されています。

今年は、明治43年の大水害から99年、カスリーン台風から62年になります。これらの水害については、埼玉県ではそれぞれ県内の状況を詳細にまとめ「埼玉県水害誌」として刊行しています。町域では、ことに明治43年の大水害について、百間村の当時の様子が「百間村水害誌」として克明にまとめられています。

こうした過去の自然災害の恐ろしさを知り、それらを教訓とし改めて考える機会として、今回の特別展を開催するものです。ぜひご覧ください。

開催期間 平成21年10月24日(土)～
平成21年12月27日(日)



昭和22年カスリーン台風の埼玉県の水害状況(埼玉県水害誌付録写真帖より)

資料館日誌抄

- 1月10日 巡回展「埼玉の遺跡」(4月19日まで)
- 2月21日 季節展示「お雛様」(4月10日まで)
- 4月11日 季節展示「五月人形」(7月5日まで)
- 4月17日 百間小学校6年生企画展見学(107名)
- 4月22日 笠原小学校6年生企画展見学(48名)
- 4月26日 企画展「みやしろ歩け歩け」(7月13日まで)
- 5月20日～27日 道仏北遺跡発掘調査(道路部分)
- 5月27日～6月3日 道仏北遺跡発掘調査(看板部分)
- 6月23日 第1回文化財保護委員会
- 6月23日 幸手市ボランティア連絡会資料館見学(17名)
- 6月27日 企画展講座 みやしろ歩け歩け～糸原地区～
- 6月30日 須賀小学校3年生資料館見学(78名)
- 7月9～10日 チャレンジ2days(杉戸中、須賀中 計4名)
- 7月18日 企画展「金原遺跡発掘出土品展Ⅲ」(10月18日まで)
- 7月26日 第42回遺跡発掘調査報告会職員派遣
- 7月28日～8月26日 夏休み体験学習～郷土資料館へ行こう～
- 7月30日 縄文土器づくり教室
- 8月1日 昔話を聞く会
- 8月2日 移築民家とアタラシイゲキ
- 8月2日 春日部市郷土資料館学芸員実習生見学(7名)
- 8月4日～21日 博物館学芸員実習(2名)
- 8月5日～7日 教員5年次研修(1名)
- 8月7日 教員町めぐり職員派遣、資料館見学(19名)

- 8月18日 宮代高校放送部久喜鷹場関係来館(5名)
- 8月27日 須賀遺跡試掘調査
- 8月29日 土器焼き

資料館寄贈者名簿

- 石川悦子氏 書籍
- 吉岡繁雄氏 民具

宮代町郷土資料館だより えんがわ 36号

発行日 平成21年8月31日

発行 宮代町郷土資料館

郵便番号 345-0817

住所 埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地

電話番号 0480-34-8882

H P <http://www.town.miyashiro.saitama.jp>